

ダイズのカリ資材による放射性セシウム吸収抑制は 播種前施用が最も効果が高い

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質吸収抑制技術の開発

研究課題名 畑作物における放射性物質の吸収抑制技術の開発

担当者 平山孝

I 新技術の解説

1 要旨

ダイズの放射性セシウム吸収抑制対策としてカリ資材の施用が有効であるが、その施用時期は播種前が最も効果が高いことを明らかにした。

- (1) ダイズ栽培において、土壌中の交換性カリ含量は塩化カリを施用した直後に大きく上昇し、徐々に低下する傾向が見られた。収穫時には、最大繁茂期施用＞開花期施用＞播種前施用、5葉期施用、播種前＋開花期分施＞無施用の順に高くなった(図1)。
- (2) ダイズ子実へのセシウム137濃度は、カリ資材の施用時期が早いほど低くなる傾向が見られ(図1)、ダイズ栽培における放射性セシウム吸収抑制対策として、土壌中の交換性カリ含量を早期に高めることが有効であることを明らかにした。

2 期待される効果

- (1) ダイズ栽培における効果的な放射性セシウム吸収対策として、現場での活用が期待される。

3 活用上の留意点

- (1) 試験は農業総合センターの水田転換畑で実施した。
- (2) カリ資材を施用しても土壌中の交換性カリ含量が上がりにくい土壌では、カリの5葉期追肥の効果が高い(平成27年放射線関連支援技術情報)。

II 具体的データ等

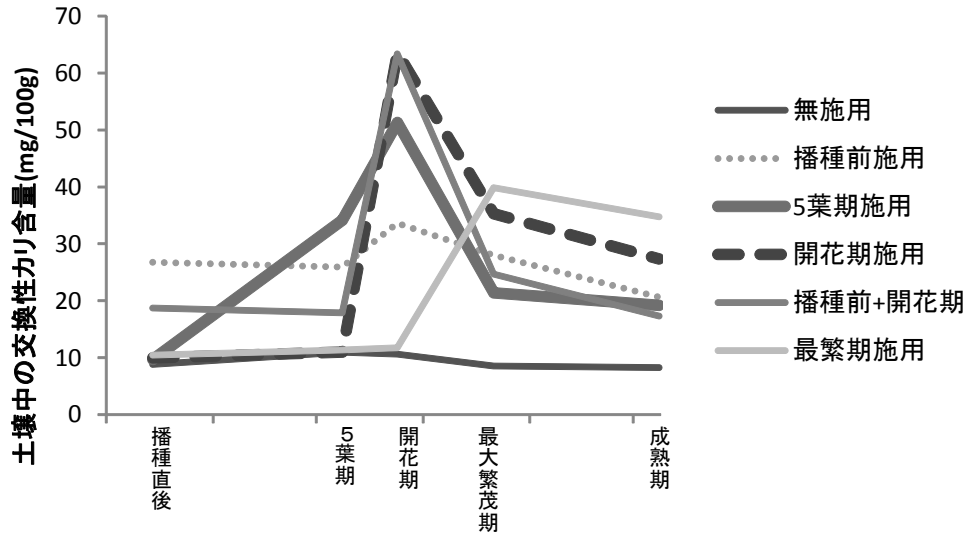


図1 カリの施用法と土壌中の交換性カリ含量

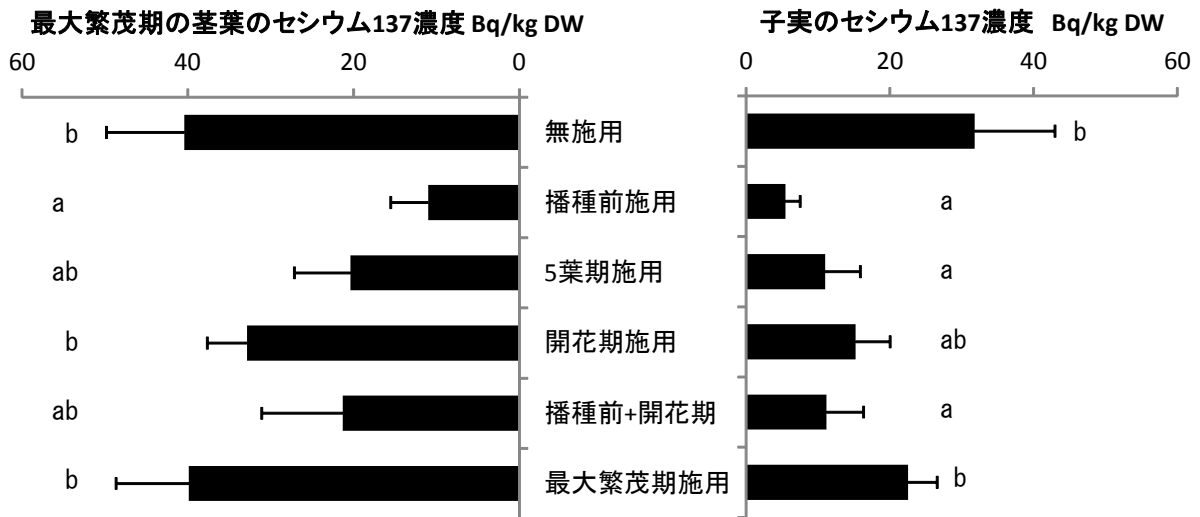


図2 カリの施用法とダイズ茎葉および子実のセシウム137濃度

III その他

1 執筆者

平山孝

2 実施期間

平成27年度

3 主な参考文献・資料